榆木小学校　学校通信
No.３６

なりたい自分になる！

PLUS ULTLA

令和７年１月１０日
文責　余宮

３学期が始まりました。次の学年への０学期でもありますね。

今は、まだ…

令和７年の幕が開けました。本年も素敵な一年になりますように、心してがんばってほしいと願っています。もちろん神頼みも悪くはないのですが、ぜひなりたい自分へ向けた自分なりの PLUS ULTRA に挑戦してほしいものです。（これは、どうも自分自身に言っているな。）

そんなことを考えていた折、マセソン未希さんという方のインタビュー記事に出合いました。マセソン未希さんは、国際パラリンピック委員会理事でパラアスリート、長野パラリンピック「アイススレッジスピードスケート」で金メダル３個、銀メダル１個の合計４個のメダルを獲得したすごい選手なんです。

まずは、アイススレッジスピードスケートってどんなスポーツだろう、と思われたでしょう。私も、なんだろうと思って調べてみると、氷上においてそり（スレッジ）に乗って行われる競技で、座ってスキーのストックのようなものでそりを操るスピードスケートだそうです。残念ながら、現在のパラリンピックの正式種目ではないそうですが、長野大会で日本がメダル３２個も獲得した、とてもゆかりのある競技なんだそうです。パラ公式種目ではなくなった競技とはいえ、レクリエーション活動などのいろんな場面で楽しまれている、ということでした。

マセソン未希さんがアイススレッジスピードスケートに出合った当時は、まだ日本に入ってきたばかりの新しい競技だったそうです。指導法が確立されていないどころか、その操作法までよくわからない。「不思議がいっぱい」だったと振り返っておられます。器具のセッティングなども含めて、トライ＆エラーを繰り返し、いろんな工夫をしながら練習を積み重ねられたとのこと。それで、金銀メダルは恐るべしですね。

そのマセソン未希さんのモットーが、「大きすぎる夢はない。そして、可能性は無限大」なんとも素敵なフレーズです。続けて、次のように述べられました。

「もし昔に戻れるとしたら、落ち込んだり、悩んだりしていた自分にそれ（モットー）を伝えたいと思います。無理かもしれないと思ってしまうときは、『今は、まだ』という言葉を付けてみよう」

本当に、勇気づけられる言葉です。

さらに、マセソン未希さんは「共生」ということについても、言及されていました。共生とは、「多様な個がそれぞれの基準で力を最大限生かせるやり方で、お互いを生かし合うこと」なのだと。人間のよさや可能性、そしてコミュニティーの力を信じているマセソン未希さんらしい言葉から、私は公立学校の未来の姿に想いを馳せました。

さあ、令和６年度、最後の学期の始まりです。この学年でやり残したことはないだろうか。後悔しないような（令和５年度学校通信 No.43 後悔、後に立たず？参照）３学期を、子どもたちには、個性的でカラフルな道を朗らかに闊歩してほしいと心から願っています。

３学期も、どうぞ保護者の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。